

パイ

2019年9月発行
VOL.2 秋号



【表紙】^{たろきわ}足沢の旬を楽しむ会～秋の里山(二戸市)

9月22日、実りの季節を迎えた里山「足沢」で、天台寺に続く古道「御山街道」のトレッキングや野菜収穫体験、そして雑穀料理バイキングを楽しむ会が開催されました。

今年で17回目の開催となる会は、二戸市内外から多くの皆さんが参加して、地域住民との和気あいあいトークがあちこちでくり広げられました。事前に草刈りがされたトレッキングコースを歴史や植生のお話を聞きながら歩いた後は、トウモロコシと枝豆の収穫体験そしてお母さん方が丹精込めて作った自慢の雑穀料理バイキングに舌鼓。里山の秋を存分に楽しみました。

【特集】つながる・地域の元気「県北編」 …2-3

NPO法人 りんどう
オドデ塾

岩手県からのお知らせ	4
岩手県社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センターからのお知らせ	5
NPO活動交流センターからのお知らせ	6
助成金情報	7
あなたのまちの市民活動支援のみなもと NPO法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズ	8

オドデ塾 毎年恒例となったイベントを運営 地域の若者が世代の交流を生む



8月の盆踊り大会



左が七戸さん、右が小井田事務局長

オドデ塾が結成されたのは25年前。当時、地域の振興を担ってきた青年会の活動が下火になった。それに代わる形で江刺家地域から立ち上がったという。塾生にはUターンで九戸村に戻り参加する人も多い。小井田寛周事務局長と、七戸宏太さんも地元に戻り塾生となった。「仕事以外での人とのつながりが増え、世代が異なる人との交流も多くなりました。」

活動で新たな つながりが増える

岩手県北地域、二戸市や久慈市などに隣接する九戸村。山々に囲まれた自然豊かな村は、大きく6つの地域に分けられる。その中の江刺家(えさしか)地域を拠点に、九戸村内で活動する青年ボランティア団体「オドデ塾」だ。「オドデ」とは地域で親しまれているオドデ様という神様のこと。現在の塾生(メンバー)は10人。九戸村に住む20代〜30代の若者が構成されている。塾生の住む地域や仕事はばらばらだが、それを活かして得意なことを分担しているそうだ。



◎オドデ様

上半身がフクロウ、下半身は人間という神様。人の心を読む事ができると言われている。ヒメボタルの生息地として知られる折爪岳には「オドデさまの滝」という滝があり、オドデ様の石像が立っている。地元のパワースポットにもなっているとのこと。盆踊り大会の会場にもなる「道の駅おりつめ」にもオドデ様の石像が設置されている。

農家として働く小井田さんは、地域の魅力を人と人とのつながりだと語った。現在の活動の軸となっているのは、8月の盆踊り大会と3月の演芸まつりの企画、運営だ。盆踊り大会は毎年500人以上が来場し、イワナつかみ取り大会やステージイベントで盛り上がる。演芸まつりでは舞踊や歌の他、地域の郷土芸能「江刺家神楽」などの演芸を個人、団体問わず発表している。しかし、これらの催しを開催するには10人の塾生だけでは難しい。人出不足は慢性的な課題となっている。現状は様々な人に協力してもらいながら活動しており、前日や当日にはOBや学生、ボランティアが手伝ってくれている。また、抽選会の

活動の目的は人と人、世代と世代をつなぎ地域の活性化を図ることだ。「結成当初からの目的を見失わないように活動していきたい。」と小井田さん。若者からお年寄りまで広い世代の交流を狙う。今後の活動について伺うと、村の若者をもっと巻き込んで活動したいとのこと。最近では地域の活動に参加しない若者が増えているという。オドデ塾の活動を通じて、地域への参画が期待される。

世代の交流から 地域の活性化を

景品等、地元企業からの協力もあるとのこと。



特集 つながる・地域の元気「県北編」

特集「つながる・地域の元気」、今号は県北編です。洋野町のNPO法人りんどうは、4月に空き家を共同住宅に改修し、セーフティネット住宅として開所したばかり。県内では先進的な活動に取り組んでいる団体です。

また、地域コミュニティとして九戸村で活動する青年団体「オドデ塾」取材しました。今年で25年目の地域に根ざした団体で、20代から30代の若い世代が活躍しています。

最終面では二戸市のNPO法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズを紹介します。



室内の様子



共同住宅りんどう

2019年4月、洋野町大野地域に「共同住宅りんどう」が開所した。居住に困る人を受け入れるセーフティネット住宅だ。旧大野村の空き家を共同住宅として改修した。岩手県登録の空き家を活用したセーフティネット住宅は初めてのこと。運営しているのは、2018年に設立されたNPO法人りんどう。理事長の木地谷基視さんにお話を伺った。

見守り付きの セーフティネット住宅

共同住宅の運営が法人としての活動だ。開所の経緯を伺った。実は、現在の形態になったのは成り行きだったという。元は、入居者を最後まで看られる有料老人ホームとして計画していた。その際、初期投資にかかるコストを考え、空き家の活用も決めたとのこと。しかし、関係機関とのやり取りを重ねた結果、空き家を利用した老人ホーム

の開所には課題が多く、セーフティネット住宅という形に行き着いたそうだ。

居室は8室、シェアハウスのようにキッチンやトイレは共有で、家賃を含む利用料は月額8万円から。24時間体制でスタッフを置き日常の声掛けなどにより、入居者を見守っている。緊急の対応を除き入居者が自由に生活できるという。

「既存の施設に当てはまらない人が出てきています。」と木地谷さん。介護施設までは必要としないが、少しの見守りがあれば生活できるという人に対応できるとのこと。また、入居者が必要な場合は外部の介護保険サービスが利用できる。医療面では徒歩圏内の大野診療所が、訪問看護等でバックアップしてくれているそうだ。入居者のニーズに、様々な機関からの協力を得て対応している。

居住支援と 空き家活用 に期待

入居者は地域に関係なく訪れ、短期の入居も多い。高



木地谷基視理事長

共同住宅りんどう
〒028-8802 九戸郡洋野町
大野第63地割9番地7
TEL:0194-66-7775

年齢者だけではなく、家庭の事情や様々な理由で住む場所に困る人を受け入れている。開所してまだ5か月、当面は各種機関とのネットワークを構築し、連携体制を整えたいとのこと。「この形態がうまくいけば、空き家があれば場所を選ばずできるかもしれません。」と木地谷さんは語った。まずは現在の共同住宅の稼働率を上げ、安定した運営を行いたいとのことだ。地域で居住に困る人への新たな選択肢として、今後が期待される。

◎セーフティネット住宅

高齢者や障がい者、子育て世帯などの住宅の確保に困っている人の入居を拒まず、空き家や空き室を提供する住居。都道府県や市(政令市、中核市)による登録制度があり、広く情報が提供、共有されている。

シリーズ ボランティアをはじめる虎の巻②
～はじめての活動で気をつけるポイントは?～

夏の暑さも過ぎ去り、みなさんそれぞれの秋の過ごし方を楽しんでいることでしょうか。過ごしやすく澄んだ空気のなか、今年の秋は、ボランティア活動をしてみたいはいかがでしょうか？

★はじめてのボランティア活動で知っておくと役立つ5つのポイント

①興味や関心がある身近なことからはじめよう!

まずは、今の自分にできる身近なことから取組んでみましょう。

②無理をしないで、楽しく活動しよう!

はじめから欲張ってたくさんのことをせず、余裕をもってできることからはじめてみましょう。

③約束やルールを守ろう!

ボランティア活動には、多くの方が関わりますので、お互いに気持ちよく活動できるように約束やルールは守るように心掛けましょう。

④相手や周りの方を思いやる気持ちを大切に。

ボランティア活動には、さまざまな立場や思いの人たちが参加しますので、相手を思いやる気持ちを持ちながら、お互いに尊重し合い連携しながら活動しましょう。

⑤活動前にボランティア保険に加入しましょう!

ボランティア活動中の事故に備えて、ボランティア活動保険に加入しましょう。

「どのような活動があるか調べてみたい」という方は、以下の「ボランティア体験inいわて」をチェック!

「保険のことを知りたい」という方は、以下の「ボランティア活動保険」をチェック!

★ボランティア体験inいわて～心と心でつながるよろこび～

岩手県内各地で、子どもから大人まで誰でも参加できるボランティア活動を集めました。主に高齢者、障がい者、子ども、各種イベントなどに関するボランティアをご紹介します。お好きな方法で、ボランティアを探してみてくださいね。

①パソコン・スマホから検索する方法

ボランティア体験inいわて

体験プログラム検索ができる画面が表示されます。

②最寄りの社会福祉協議会を訪ねる方法

社会福祉協議会の窓口に「ボランティア体験inいわてに参加したい」とご相談ください。

★ボランティア活動保険のご紹介

- 1人350円(基本Aプラン)からご加入いただけます。
- 加入手続き日の翌日から令和2年3月31日まで補償されます。
- 最寄りの社会福祉協議会で申込みできます(保険料持参、印鑑不要)。

〈ケガの補償〉

- ・清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。
- ・ボランティア活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなった。
- ・活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になって入院した。など

〈賠償責任の補償〉

- ・入浴ボランティア活動中、誤ってお年寄りにケガをさせた。
- ・家事援助ボランティアで清掃中、誤って花瓶を落としてこわした。
- ・自転車でボランティア活動に向かう途中、誤って他人にケガをさせた。など



【お問合せ先】

岩手県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター
TEL:019-637-4483 FAX:019-637-7592
「ずっぱりボランティアいわて」
URL <http://iwate-volunteer.jp/>

プレゼンテーションで共感を得るNPOになろう!
「組織の共感力向上セミナー」を開催

「プレゼンカ=共感力」

県では、32万部を超えるベストセラー「1分で話せ」の著者、伊藤羊一さんを講師に迎え、相手の心をつかみ共感を得るプレゼンテーションについて学ぶセミナーを開催します。

■講師 伊藤 羊一氏(ヤフー㈱コーポレートエバンジェリスト、Yahoo!アカデミア学長、㈱ウェイウェイ代表取締役)

■日時・会場 令和元年10月23日(水) ※盛岡市、釜石市にて同日2カ所開催

	盛岡会場	釜石会場
時 間	10:30～12:00(10:00 受付開始)	15:00～16:30 (14:30 受付開始)
会 場	いわて県民情報交流センター アイーナ 501号室	釜石情報交流センター チームスマイル釜石PIT

■申込・お問い合わせ先

申込期限:令和元年10月17日(木) 18:00まで

特定非営利活動法人いわて連携復興センターTEL:0197-72-6200

詳しくは、ホームページ (URL <http://www.ifc.jp/>) をご覧ください。

参加費
無 料



認定NPO法人取得・更新

特定非営利活動促進法第44条第1項及び第51条1項の規定による認定特定非営利活動法人として認定しました。

特定非営利活動法人accommon(アコモモン)
(令和元年9月認定取得)

活動内容:発達障がいなどで集団生活が苦手な子ども・大人と家族が、社会の一員として充実した生活ができるようになることを目指して活動しています。



代表者:理事長 成田 礎野美

住 所:盛岡市大通三丁目7番21号-202

TEL&FAX:019-656-7067

URL : <https://accommon.jp/>

認定NPO法人いわて子育てネット
(令和元年8月更新)

活動内容:子育て環境の向上に寄与することを目的に活動しています。子育てサポートセンター(岩手県)つどいの広場KOKKO・にっこ(盛岡市)の受託のほか様々な子育て応援を行っています。



代表者:理事長 村井 軍一

住 所:(事務局)盛岡市菜園2丁目2番19号十九番館

TEL:019-652-2910 FAX:019-652-9077

いわて県民情報交流センター イベント

○第20回復興バザー

■日時 10月14日(月・祝) 10:30～15:30

■会場 アイーナ 4F

館内の各施設から提供された品を販売するアイーナブースのほか、個人や各種活動団体、福祉施設のブースがあります。売り上げは、東日本大震災のほか日本各地で発生した自然災害への義援金として寄付します。掘り出し物もたくさん、ぜひお出かけください。

○ON活フェア

■日時 11月5日(火)～11月28日(木)

■会場 アイーナ 6F 団体活動室他

・NPO活動交流センターを会場に活動している NPO/ボランティア団体の皆さんの活動を紹介するパネルの展示
・活動(主に健康増進の各種スポーツ、謎解きやボードゲームなど)の体験ワークショップ
※体験ワークショップは11月17日(日)に予定しています。内容については、今後HP等に掲載しますのでご確認ください。

【お問合せ先・お申込み先】 NPO活動交流センター TEL:019-606-1760 E-mail : n-katsu@aiina.jp

助成金情報

これから申請できる助成金情報です。
詳細については、実施団体に直接連絡するかホームページをご確認ください。



助成事業（地域文化の振興をめざして）[支援団体/（公財）全国税理士共栄会文化財団]

助成対象／①芸術活動分野

地域における音楽・舞踊・演劇等の芸術活動及びそれらの人材の育成などに努力している個人または団体

②伝統芸能分野

地域における伝統芸能の保存及び後継者の育成を図るための活動などに努力している個人または団体

③伝統工芸技術分野

地域における伝統工芸技術の保存及び後継者の育成を図るための活動などに努力している個人または団体

④食文化分野

地域における食文化に関わる技能及び技法、並びに継承者の育成等を図るための活動などに努力している個人または団体

助成条件／①助成金は、活動のための諸費用を要するものとします。

◆例：研修費、会場費、材料費、道具費、記録費、衣裝修繕費等

②芸術活動分野および伝統芸能分野の助成は、2020年4月1日から2021年3月31日の間に実行および支出するものを対象とします。

③家元・流派が確立され、維持の見通しが立つようなものは除きます。

④過去に本財団から助成を受けた場合、原則として重複しての助成はいたしません。

⑤海外での活動に対しては助成いたしません。

⑥助成による「活動結果報告書」（本財団所定の用紙）等の提出が可能であること。

※報告書には領収書（写）、写真、新聞・雑誌等報道記事他を添付してください。

※パンフレット・チラシ等を作成の際は本財団名を記載してください。

⑦申請内容に変更が生じた場合は、2019年11月末までに必ずご連絡ください

※税理士会及び税理士協同組合並びに税理士、都道府県教育委員会・文化関係部局、学識経験者、報道機関等いずれかの推薦及び本財団所定の推薦書を必要とします。

●申込期限／令和元年10月31日（木）※消印有効 ●助成金額／1件あたりの上限額：50万円を限度

●参考URL／<http://www.zenzeikyo.com/assist/index.html>

未来のつばさ プロジェクト支援事業2019[支援団体/（公財）楽天 未来のつばさ]

対象団体／支援を受けようとする団体は、日本国内における児童養護関連団体で事業計画に従って遂行に足る能力を有する団体であり、また、それを過去の実績等で証明できること。申請は1団体、1プロジェクトとする。また原則2年連続の助成は行わない。

対象事業／・児童養護関連プロジェクトで、その内容が子どもの権利擁護、子どもの最善の利益に資するものであること。

・児童養護関連プロジェクトに於いて、そのプロジェクトの計画性及び方法が目的を達成するために適切で、かつ支援によりプロジェクトの効果が十分発揮できると認められたものであること。

・当該支援プロジェクトは、営利を目的としないものであること。

●申込期限／令和元年10月31日（木）必着 ●助成金額／1件あたりの上限額：30万円 件数6件

●参考URL/<https://mirainotsubasa.or.jp/institution/outline/>

2020年度助成（地域文化の振興）[支援団体/（公財）三菱UFJ信託地域文化財団]

対象団体／永年地域文化の振興に寄与してこられた団体、とりわけ地域の音楽・美術・演劇・伝統芸能の各分野において努力されている諸団体の活動に対して助成支援を行う。

①音楽部門、演劇部門、伝統芸能部門は、アマチュアの団体・公演に限る。

②美術展部門は地域の人に優れた美術品を鑑賞する機会を提供する活動として、アマチュアとは限定しない。

③過去当財団の助成を受けた団体は、前回助成を受けた年度から、少なくとも5年超経過していること。

対象事業／（1）国内の団体・法人が、日本国内で行う、地域文化振興に寄与し、文化・芸術的に優れた、公演・美術展等。

（2）前項の公演・美術展等は、2020年度（2020年4月1日～2021年3月31日まで）に開催もしくは会期が開始するものとする。

●申込期限／令和元年11月30日（土）消印有効 ●助成金額／1件あたりの上限額：なし ※過去1件当たり20万円～70万円程度

●参考URL/<http://www.mut-tiikibunkazaidan.or.jp/>

知っていますか？ SDGs (SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)

「SDGs(エスディー・ジーズ)」とは、「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、17の目標の実現を目指すものです。私たちNPO等の活動の一つひとつが、SDGsの達成に繋がります。では、どんな目標があるのでしょうか…

1～6の目標を見ていきましょう！



1. 貧困をなくそう

あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



2. 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



3. すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人に健康的な生活を確保し、福祉を推進する



4. 質の高い教育をみんなに

すべての人に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



5. ジェンダー平等を実現しよう

ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る



6. 安全な水とトイレを世界中に

すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する

この6つの目標を見ると、貧困や飢餓、健康や教育、さらには安全な水など開発途上国に対する支援が中心と思われますが、実際には、日本の子どもの7人に1人が貧困だと言われています。また、ジェンダー平等に関しても2018年12月に世界経済フォーラムで発表された男女格差を測る「ジェンダーギャップ指数」によると、149カ国のうち110位と、とても低い順位になっていて、これらの目標は日本国内でも当てはまることだと言えます。

N活の講座・NPOなんでも！サロンの開催

毎回、テーマを設定して開催しています。関心のある方はどなたでも参加できます。お気軽にお申し込み下さい。

NPO基礎講座

■日時

10月9日（水）「NPO法人 登記に関する留意事項」
11月13日（水）「連携・協働のススメ」
いずれも ①14:00～15:30 ②19:00～20:30

NPOなんでも！サロン

■日時

10月23日（水）「情報発信のコツ！」
11月27日（水）「プレゼンテーションのコツ！」
12月11日（水）「事例研究1:先駆的活動事例」
いずれも ①14:00～15:30 ②19:00～20:30

■場所 アイーナ6F 団体活動室1AB

■定員 各回 5名

※終了後、個別相談会あり

■講師

①久保NPO専門員

②岩見副センター長

※内容・講師の変更がある場合があります。ご了承ください。

■申込・問い合わせ先

NPO活動交流センター

TEL：019-606-1760

E-mail: n-katsu@aiina.jp

【全国の災害関連ボランティア・募金情報】

○令和元年8月28日から続いた「令和元年8月の前線に伴う大雨災害」について、中央共同募金会は寄付の受付を開始しました。詳しくは、右記URLをご覧ください。 <https://www.akaihane.or.jp/saigai-news/vorasapo/6253/>

あなたのまちの市民活動支援のみなもと

NPO法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズ



H30地域づくりフェスティバルの様子：活動している団体の交流から広がる地域の絆

市町村の枠を超えた 広域の地域づくりの 実践

「地域のためにこんなことをしてみたい。」「活動にもっと拡がりを持たせたいがきっかけが掴めない。」「十分な活動のための資金が足りない。」「といった悩みを抱え、活動がうまく進まない個人や団体の課題を一緒に解決するため、平成13年に設立。浄法寺町（当時）を含めた二戸市、二戸町、軽米町、九戸村の現4市町村の地域づくり活動を多方面にわたってサポートしているNPO法人カシオペア連邦地域づくりサポーターズの活動は、今年度で19年目を迎える。設立以降、カシオペア連邦とよばれるこの地域を対象として行政と連携協働した各種イベントや地域づくり助成事業の実施、地元印刷会社と協働した地域活動団体の情報発信など、地域のニーズや時代に合わせた活動支援に取り組んでいる。

ノウハウを生かした 地域づくりの 新しいステージへ

東日本大震災後に、同じ県北地域を構成する久慈地域はじめ沿岸地域への支援活動を通じて、新しい交流が始まった。これまで実施した「カシオペア地域づくり助成事業」を通じて知り合った活動団体が協力し、当法人が現地と調整を行い実現に至ったものだが、これまで地道に取り組んできた活動が大きく花開いた瞬間である。

18年間の活動で繋がった地域は、岩手県内だけではなく県外にも広がる。活動を通じて出会った皆さんの実現したいことに寄り添いながら、地域内はもとより、他地域との交流と連携をより広く、深く進めていきたいと考えている。

地域の「呼びかけ屋さん」「繋ぎ屋さん」としての役割をしっかりと担い、「カシオペア連邦」は、また一歩未来に向かって進んでいく。

カシオペア連邦地域づくりサポーターズ DATA…〒028-5311 二戸郡一戸町高善寺字野田58-4
TEL:0195-23-2265 E-mail:info@w-supporters.jp HP:http://www.w-supporters.jp

NPO活動交流センターのHPでは、様々なイベント情報や助成金情報を掲載しています。

みなさまからの市民活動情報や「ピン」への取材依頼もお寄せください。

URL: <http://www.aiinanpo.org/> E-mail: n-katsu@aiina.jp

アイーナ N活

検索

Twitter フォローお願いします!!!
<https://twitter.com/aiinaNPO>

Facebook いいねをお願いします!!!
<https://www.facebook.com/aiinaNPO>

編集後記

今号の特集では県北地域の2団体を紹介しました。オドデ塾の塾生は全員20代、30代の若者ですが、結成されたのは25年前。若者が地域を盛り上げる仕組みが長年引き継がれています。地域社会がうまく循環しているなと感じました。

また、共同住宅りんどうは4月に開所したばかりですが、県内初の取り組みに大きな可能性を感じます。次号は県南地域の団体の特集します。(H・M)